

平成23年度

第5回岡山市保健福祉政策審議会における主要な意見

- 1 日時 平成24年2月17日(金) 13:56~15:41
- 2 場所 岡山市保健福祉会館4階 こころの健康相談室
- 3 出席者 委員6名
- 4 傍聴者 報道2社、傍聴者2名
- 5 議題 ・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の見直しについて
高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画案について

6 主要な意見

(1)介護サービス量について

- ・介護保険の利用者のことを考えたら、在宅介護へシフトするというのはなかなか難しいと思う。施設整備について、地域バランスは必要であるが、できていない部分重複した障害のある人へのグループホームなどももう少し進めていってもよいのではないか。
- ・介護予防の実施は、必要であるが、市が直営で実施するのはなかなか困難である。その為、市はふれあい公社とかNPOなどにいろんな形で支援するような仕組み作りをする必要があると思う。
- ・新しい制度である巡回型の訪問介護について、24時間対応できるようにスタッフを配置することは、採算上難しいと思う。地域でのニーズが、どの程度存在するかを見極めないと参入する業者はなかなか現れないと思う。
- ・介護サービス量が、増えれば介護保険料は上昇する。市としても少しでも介護サービス量が減らせるように努力、検討してほしい。

(2) 介護保険料について

- ・少しでも保険料を抑えられないか。
- ・法定給付として認められている介護サービスを、市だけ止めることはできない。
- ・当面の介護保険料を抑えて、負担と給付のバランスが赤字になると、そのつけが後に回ることになる。市民には、しっかり負担と給付の問題を説明して理解してもらうことが大事である。

(3) その他

- ・障害者自立支援法でサービスを受ける障害者が65歳以上になると、介護保険に移行することになる。このような障害者への介護職員の対応などが、難しいと聞く。次期(6期)計画を策定するにあたっては、実態調査と対応について検討する必要があるのではないか。
- ・在宅福祉を進める上で、地域で生きていく高齢者が今、困っているのは、交通弱者の問題が大きいと思う。